

新型コロナウイルス流行下における歯科治療についての当院の考え

医療法人社団港央会 理事長 さかきばら歯科 院長 榎原毅

新型コロナウイルスの世界的な流行によって我々の生活は一変し、社会、個人における感染対策が優先となり、行動、考え方、価値観が変わってきています。

諸外国におけるロックダウン、日本における緊急事態宣言など、国によって対応は違うものの、国家が強制力を持って人の流れを止めないと感染の拡大をコントロールできない状況です。今まで当たり前に行っていたことが当たり前に行えなくなっております。

歯科医院を含む全ての医療機関は、現時点で行政より緊急事態宣言下においても事業の継続を要請されております。

当院は厚生省より「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」、「歯科外来診療環境体制加算歯科診療所」として認定を受けており、さらに独自に感染対策を強化し、細心の注意を払った上で診療を継続しております。

患者様にも手指の消毒の徹底、マスクの装着、体調チェックと体調不良時の治療の延期などのご協力をお願いしております。

報告によると、5月1日時点で全国の歯科医院において治療時の新型コロナウイルス感染は確認されておりません。

これは、今回の新型コロナウイルスは感染力がより強く、未知のものではありますが、我々歯科医師は以前よりインフルエンザ、HIV、ウイルス性肝炎などの感染症に対する院内感染対策をたてて診療に当たっており、その経験を生かしつつさらに対策を強化した結果であると考えております。

しかしながらこれはあくまで現時点での結果であり、歯科医院通院、治療における新型コロナウイルスの感染リスクが0であることを意味する訳ではありません。また今後ずっと歯科医院での治療で感染が起こらないことを保証するものでもありません。

従って、新型コロナウイルス感染のリスクを考慮して通院を中断する方におかれましては、患者様の決定を尊重致します。その場合は歯科疾患に対するリスクは高まることをご理解いただき、ご自身でのホームケアなどをより強化していただきたく存じます。

私たちは歯科医院への通院は大切だと考えております。理由は以下の通りです。

- 虫歯や歯周病などの歯科疾患は基本的には自然には治りません。
- 歯の形は複雑で、必ずしも毎日完璧に磨けません。ご自身では磨けない場所を専門的にケアする必要があります。
- 虫歯の発生、歯周病の進行のリスクを0にすることはできません
- 虫歯や歯周病が進行しても痛みが出るとは限らず、気づかないうちに悪化してしまうことがあります。
- 専門的な機器を用いて、定期的にチェックすることで早期発見→早期治療が可能になります。
- 定期検診を行わないと歯を失うリスクは高まるというデータがあります。
- インプラントにおいても定期検診を行わなければインプラント周囲炎などを起こす可能性が高まり、失敗のリスクが上がります。
- 口腔疾患が全身の病気、例えば糖尿病、心臓疾患、誤嚥性肺炎など全身の疾患の悪化に関係していることがわかっています。

今回の新型コロナウイルス感染拡大の影響は長期にわたることが予想され、その間ずっと歯科医院への通院が中断することのデメリットも小さくないと危惧しております。

そのため、通院継続か、ご自身でのホームケアを行うかは上記を十分ご考慮上お決めい

たいただきますようよろしくお願い申し上げます。

2020年5月7日